

## ジャージー種の2021-3月評価に係る変更点

### 2021-3月評価から遺伝ベースを変更します。

個体の遺伝的能力は、基準となる年（ベース年）に生まれた雌牛（又は雄牛）の平均値をゼロ等とし、そこからの差として表示されます。一般的に遺伝評価値は、平均的な乳用牛に交配した時に期待される遺伝的改良量を表すことが望ましいことから、定期的にベース年を変更する必要があります。現在の主要な評価形質の遺伝ベースは、2010年生まれの雌牛の平均がゼロとなるように2016-3月評価に変更が行われ、2021-3月評価において約5年経過することとなるため、2021-3月評価から遺伝ベースが変更されます。新たな遺伝ベースの定義は表1をご参照ください。

遺伝ベースの変更は、見かけ上の数値の大きさが全体的に変わるものであり個体の序列には影響を与えませんが、遺伝ベースの変更前後での遺伝評価値の数値は大きく異なり、単純に比較することができなくなります。表2に2021-3月評価時での主要形質の遺伝ベース変更前後の検定牛における評価値の差（変更後-変更前）の平均値を示しました。ベース変更後の評価値は、ベース変更前の数値に表2に示された数値を加えた程度の大きさになると予想できます（例：ベース変更前の乳量の推定育種価が1000kgであれば、 $1000\text{kg}+54.8\text{kg}=1054.8\text{kg}$ ）。

表1 各評価形質の新たな遺伝ベースの定義

評価形質	遺伝ベースの定義
泌乳形質	2015年生まれの雌牛の平均値が、ゼロ
体細胞スコア	2015年生まれの雌牛の平均値が、2.76

表2 2021-3月評価時の泌乳形質と体細胞スコアの遺伝ベース変更前後の評価値の差（変更後-変更前）

乳量 (kg)	+54.8	乳蛋白質量 (kg)	+2.47
乳脂量 (kg)	+0.57	体細胞スコア	-0.30
無脂固体分量 (kg)	+5.05		